
会社名 三光産業株式会社（7922）

説明内容 平成21年3月期第2四半期決算

説明要旨

- I. 三光産業のご紹介（初めてご覧になる方へ）
- II. 平成21年3月期第2四半期決算概要
- III. 今後の展開、平成21年3月期業績予想

I. 三光産業のご紹介

◎事業目的及び沿革

当社は粘着剤付きラベル・ステッカー・ネームプレート等の特殊印刷製品の企画ならびに製造販売を事業としております。

設立当初は、家電製品や自動車、オートバイ等に使用されるラベル・ステッカーの販売商社でありましたが、日本経済が大量生産時代に入り、安価な材料に対する安定供給のニーズが高まりだしたこともあり、昭和 42 年に方南工場、57 年に川越工場、60 年に大阪工場を設立してまいりました。主に、白物家電や自動車向けラベル・ステッカーの製造を行ってまいりましたが、機械や AV 機器関係へ用途を広げる中で、オーディオ用カセット、ビデオテープ、CD、DVD といったソフト関係へ展開し、国内の事業基盤を固めてまいりました。一方、顧客の海外展開に歩調を合わせ、昭和 63 年にマレーシア工場を、平成 13 年に香港に子会社光華産業有限公司を設立いたしました。また平成 15 年に中国深圳市に同社の生産委託工場を設置し、平成 19 年 2 月に同社の子会社として、深圳市に燦光電子(深圳)有限公司を設立いたしました。

◎当社製品の特徴

表示・取扱いラベル、CAUTION ラベルといった単純なラベルからスタートした後、FAX やコピー機のタッチパネル、テレビ・ビデオ等の表示銘板等の応用製品へ展開してまいりました。

現在では携帯電話機、デジタルカメラ等のデジタル機器向け外構部品や付属機器にまで製品範囲を拡大しております。

製品取扱い点数は約 4 万点、1 日の取扱い品目は 2,000 点と多く、顧客の生産計画の変更やデュータイムの短縮に対応できるように得意先ラインに直接納入する体制を構築しております。

特殊印刷分野で、シール印刷、オフセット印刷、シルク印刷と多様な印刷方式と加工を総合的に扱えることが特徴であります。

また、粘着剤やインクを扱うため環境問題には、特に注意を払っております。このため、ISO14000 の環境基準に準拠した製品作りを行っており、材料メーカーやインクメーカーと一体で環境問題に取り組んでおります。

◎経営の基本方針

当社グループはあらゆる印刷・加工技術を駆使して、装飾性の豊かさを追求することを社会的使命とし、このため素材と印刷のコンビネーションの極大値を実現する技術を蓄積すると同時に、地球環境問題を直視した経営を目標としてまいります。

上記の基本方針を実現するために、次の諸点を経営行動の指針として掲げております。

1. お客様と共に研究・開発に努め技術の蓄積を目指す。
2. 品質保証体制を確立し、多品種少量型の受注にも対応できる様生産設備の充実を目指す。
3. 営業力の向上に努め、真のマーケットリーダーを目指す。
4. 無駄な組織を排除し、効率化を迫及する。

これからも環境の変化にスピーディーに対応して、お得意先からの信頼を更に高め、企業価値の最大化を目指してまいります。

Ⅱ.平成 21 年 3 月期第 2 四半期(累計)決算概要

◎ 損益計算書の概要 (連結)

(単位：百万円)

	07/9 第2四半期(累計)		08/9 第2四半期(累計)		09/3 期《予想》	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	6,097	100.0	5,508	100.0	11,330	100.0
AV 機器関連	(1,520)	(24.9)	(1,451)	(26.3)	(2,900)	(25.6)
OA 機器関連	(2,407)	(39.5)	(1,789)	(32.5)	(3,900)	(34.4)
その他電気機器関連	(1,049)	(17.2)	(1,240)	(22.5)	(2,530)	(22.3)
輸送用機器関連	(605)	(9.9)	(503)	(9.1)	(950)	(8.4)
その他	(516)	(8.5)	(524)	(9.6)	(1,050)	(9.3)
売上総利益	1,274	20.9	1,020	18.5	2,193	19.3
営業利益	324	5.3	27	0.5	193	1.7
経常利益	345	5.6	64	1.2	241	2.1
四半期純利益又は損失(△)	262	4.3	△21	△0.4	140	1.2

2008 年 9 月第 2 四半期の業績に関しましては、前年同期比減収、減益の結果となりました。

○ 売上高に関しましては、引続き顧客企業の海外への生産シフトが続くなかで、香港、中国を中心とするアジア向けの売上が堅調に推移いたしました。しかしながら、国内においては、OA 機器関連業種および輸送用機器関連の売上が大幅に減少いたしました。これらの結果売上高は 5,508 百万円(前年同期比 90.3%)と大幅に減少いたしました。

- ・AV 機器関連は、主にオーディオ機器向けの受注量の減少により売上高 1,451 百万円、前年同期比 4.5%減少。
- ・OA 機器関連は、国内メーカーの携帯電話事業からの撤退と新機種の減少による影響により売上高 1,789 百万円、前年同期比 25.7%減少。
- ・その他電気機器関連は、電子部品向けの受注が増加し売上高 1,240 百万円、前年同期比 18.3%増加。
- ・輸送用機器関連は内、自動車メーカーの生産調整による受注量の減少により 503 百万円、前年同期比 16.9%減少。
- ・その他の業種は、主としてアミューズメント関連が堅調に推移した結果、売上高 524 百万円、前年同期比 1.5%増加。

- 売上総利益率は、受注量減少による工場の操業度低下により前年同期比 2.4 ポイント悪化いたしました。
- 営業利益は 27 百万円前期比 91.6%減少、売上高に対する比率 0.5%で前期比 4.8 ポイント悪化いたしました。
- 営業外では為替差益が 8 百万円増加いたしましたが、経常利益は 64 百万円前期比 81.2%減少となりました。
- 特別損失及び税金費用については、2008年6月に発生した中国深圳市における水害により、燦光電子(深圳)有限公司(当社孫会社)の製造設備が被災し、付保によるも最終的に製造設備、たな卸資産等 25 百万円程の損害が発生いたしました他、繰延税金資産の取崩しにより、四半期純損失 21 百万円となりました。

◎ 貸借対照表の概要（連結）

（単位：百万円）

	07/9 第 2 四半期末	08/9 第 2 四半期末	08/3 期末
流動資産	(8,654)	(8,390)	(8,508)
現金及び預金	3,559	3,707	3,433
売上債権	3,968	3,406	4,065
棚卸資産	859	877	833
その他流動資産	268	399	177
固定資産	(6,407)	(6,273)	(6,417)
資産合計	(15,061)	(14,664)	(14,925)
流動負債	(2,728)	(2,657)	(2,701)
買入債務	2,118	2,028	2,124
その他流動負債	610	629	577
固定負債	(369)	(354)	(357)
退職給付引当金	173	178	176
その他固定負債	196	176	181
負債合計	(3,097)	(3,012)	(3,058)
株主資本	(11,537)	(11,453)	(11,571)
評価・換算差額等	(110)	(△99)	(△13)
少数株主持分	(317)	(297)	(308)
純資産合計	(11,964)	(11,651)	(11,866)
負債・純資産合計	(15,061)	(14,664)	(14,925)

2008年9月第2四半期末における財政状態は次のとおりであります。

- 当第2四半期末における流動資産の残高は8,390百万円（前期末8,508百万円）となり、118百万円減少いたしました。これは、主に現金及び預金274百万円増加の他、有価証券が84百万円増加いたしました。受取手形及び売掛金が659百万円減少したことによるものであります。
- 当第2四半期末における固定資産の残高は6,273百万円（前期末6,417百万円）となり、143百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産の減価償却費の計上143百万円の他、繰延税金資産の取崩しによる減少44百万円によるものであります。
- 当第2四半期末における負債の残高は3,012百万円（前期末3,058百万円）となり、46百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金等の買入債務95百万円の減少によるものであります。なお、買入債務額が売上債権額に比し低水準となっておりますのは、支払における現金の比率が40%と高いことが原因であります。
- 当第2四半期末における純資産の合計は11,651百万円（前期末11,866百万円）となり、215百万円減少いたしました。これは、主に剰余金の配当95百万円の他、為替換算調整勘定の減少70百万円によるものであります。

◎ キャッシュ・フロー計算書の概要（連結）

（単位：百万円）

	07/9 第 2 四半期 （累計）	08/9 第 2 四半期 （累計）	08/3 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	342	572	548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△289	△0	△704
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96	△96	△98
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	△13	17
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△24	461	△235
現金及び現金同等物の期首残高	3,401	3,165	3,401
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,377	3,627	3,165

当第 2 四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前第 2 四半期累計期間末に比べ 250 百万円増加し、当第 2 四半期末には 3,627 百万円となりました。

当第 2 四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

○ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は 572 百万円（前年同期比 230 百万円増）となりました。主な増加要因は、当第 2 四半期累計期間の減価償却費 143 百万円、売上債権の減少額 648 百万円であり、主な減少要因は、その他の流動資産の増加額 107 百万円、仕入債務の減少額 82 百万円等によるものであります。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は 0 百万円（同 289 百万円減）となりました。主な要因は、定期預金の払戻による収入が 84 百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出 46 百万円その他、その他の支出 38 百万円によるものであります。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は 96 百万円（同 0 百万円減）となりました。これは主に親会社による配当金の支払が 95 百万円発生したことによるものであります。

◎ 生産拠点（連結）

	印刷方式	生産実績(百万円)		08/9 第 2 四半期 (累計) 投資額(百万円)
		07/9 第 2 四半期 (累計)	08/9 第 2 四半期 (累計)	
方南工場	シール主体	179	174	1
千曲川工場	輪転機主体	270	270	15
川越工場	オフセット主体	583	500	2
大阪工場	シール・シルク主体	542	383	43
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	412	304	8
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	463	473	23
三光プリンティング	シール主体	170	142	—
	合計	2,619	2,246	92

○ 印刷方式

シール印刷は、色数が少ない、寸法が小さい、数量が少ないラベル関係の印刷が中心となります。シール印刷は方南工場を中核工場とし、千曲川工場、マレーシア工場、中国深圳工場等に大型機を設置しております。

シルク印刷は、テレビ、ビデオ、DVD 等の表示部等の印刷をしております。

オフセット印刷は、シール印刷よりも寸法、ロット、色数が大きいラベル関係の印刷を行っております。

○ 生産実績

2008 年 9 月第 2 四半期の自社工場生産額は、総生産額 2,246 百万円で売上高に対する生産比率は 40.8%でありました。

○ 投資額

投資額につきましては上期工場全体で 92 百万円ですが、主なものは千曲川工場及び大阪工場のシール印刷機であります。

Ⅲ.今後の展開・平成21年3月期業績予想

◎ 今後の展開

当社グループがメインとする家電業界は、製品のライフサイクルが短期化すると共に、価格低下のスピードが早まっております。また、海外シフトによる国内市場の空洞化が進行しております。

このような状況に対応する為、次の事項を基本戦略としております。

○中国展開

○成型品の拡大

○国内新市場の開拓

1. 中国展開

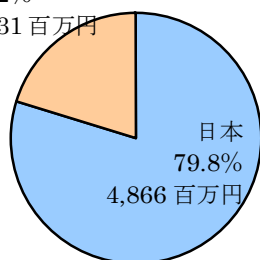
○地域別売上

‘07/9 第2四半期(累計)

アジア

20.2%

1,231 百万円

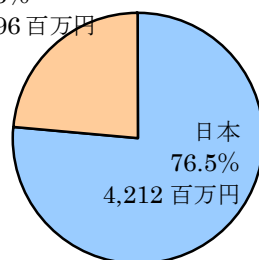


‘08/9 第2四半期(累計)

アジア

23.5%

1,296 百万円

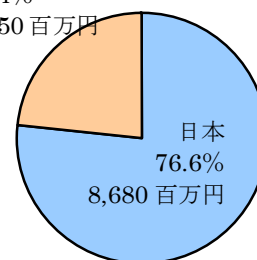


‘09/3 期予想

アジア

23.4%

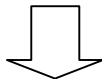
2,650 百万円



- ・AV・OA 機器関連については、セットメーカーの海外への生産シフトが続くなかアジア地域への売上高が増加しており、光華産業有限公司(香港)を中心に当社グループの中国地域での売上高も堅調に推移(前期上期 842 百万円から当期上期 850 百万円へ増加)しております。

2. 成型品の拡大

- ・依然好調な携帯電話機の亚克力窓の他、家電向け外観部品など手掛けておりますが、今後は扱い品目の多様化と顧客層の拡大を図って参ります。
- ・技術面においては、蒸着、成型、スタンピング等の技術が必要ですので、専門の外注先の組織化を進めて参ります。
- ・成型加工自体は個別対応を要するので、ユーザー毎のニーズにあった外注先を確保しつつ、付加価値向上のため一部内製化を図って参ります。



その一端として、最近では、家電業界の中にも亚克力に代わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の融合を1つのテーマとして取り組んだ結果、家電メーカーのDVDレコーダーの前面パネルとして製品化を実現いたしました。

また、携帯電話向けガラス窓は、亚克力窓に比べ高コストのため、現状では一部の採用にとどまっておりますが、機種の高級化により、ガラス窓の採用に弾みがつくと期待されます。

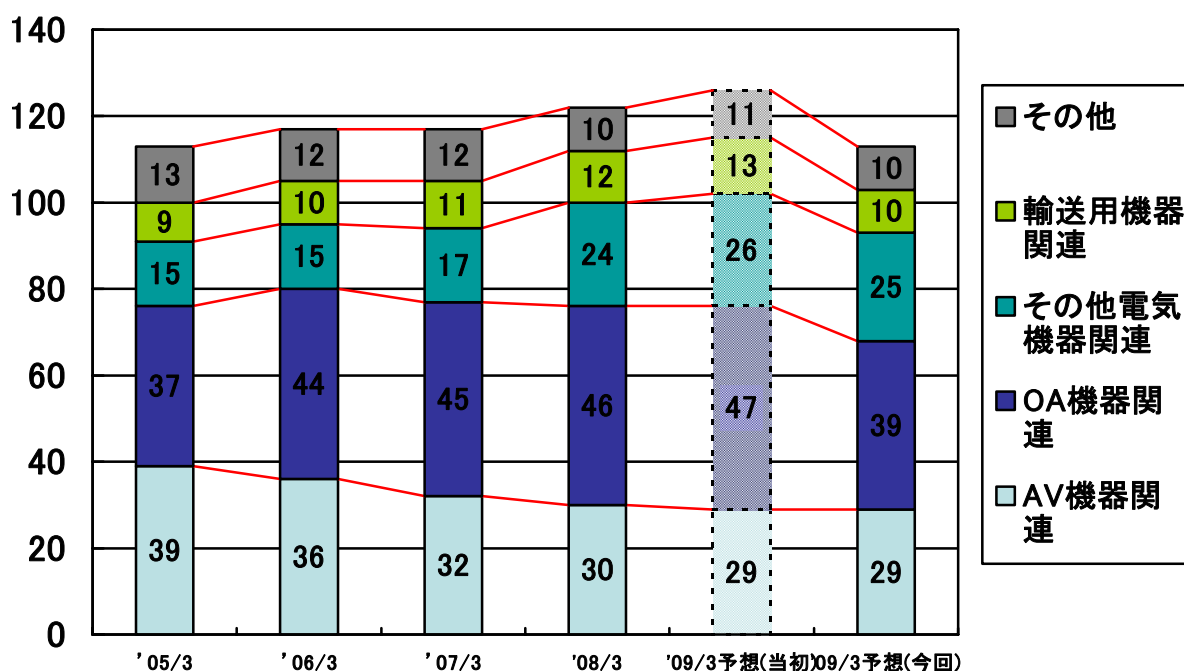
3. 国内新市場の開拓

- ・その他の業種のうち、アミューズメント、玩具景品等の分野は、少子化の影響と中国製品の増加により縮小傾向にあります。当社グループとしては、この分野で受注方式を維持しつつ、当社オリジナル企画機能も組み込んで付加価値向上を目指して参ります。
- ・また、サニー・ビジョン、ICタグ等の新製品、立体印刷等の新技術の導入により、新市場の開拓を目指して参ります。

◎ 平成 21 年 3 月期の業績予想について（連結）

業種別売上高の推移（連結・通期）

（単位：億円）



今後の経済見通しにつきましては、世界的な金融不安の影響により為替や株式市場に著しい変動を与えると共に、企業収益の圧迫や個人消費も伸び悩むなど景気の減速感が強まると予想されます。また、海外市場におきましても不透明な要素が増えつつあります。

電気機器をはじめとする当社グループの受注先業界におきましては、IT化・デジタル化の進展等により、新製品の多様化、ライフサイクルの短期化が一段と進んでおりますので、当社といたしましては、前述の基本戦略の取組みを強化し対応を図ってまいりますと共に、品質管理の徹底・生産性の向上、コスト削減の強化などを一層推進し、収益力の一層の向上を目指してまいります。

通期の業績につきましては、当初売上高 12,600 百万円と見込んでおりましたが、上期におけるOA関連及び輸送用機器関連の大幅な受注減により平成21年3月期通期の業績予想を上記のように修正いたしました。下期を踏まえた通期の業績予想については、AV機器関連及び輸送用機器関連は売上減となるものの、上期携帯電話機向けを中心に大幅に減少したOA機器関連において、下期からの新規受注により底上げされることが見込まれます。また、これにより製造部門の収益改善が見込まれます。従いまして、連結ベースで売上高 11,330 百万円、経常利益 240 百万円、当期純利益 140 百万円を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

以上